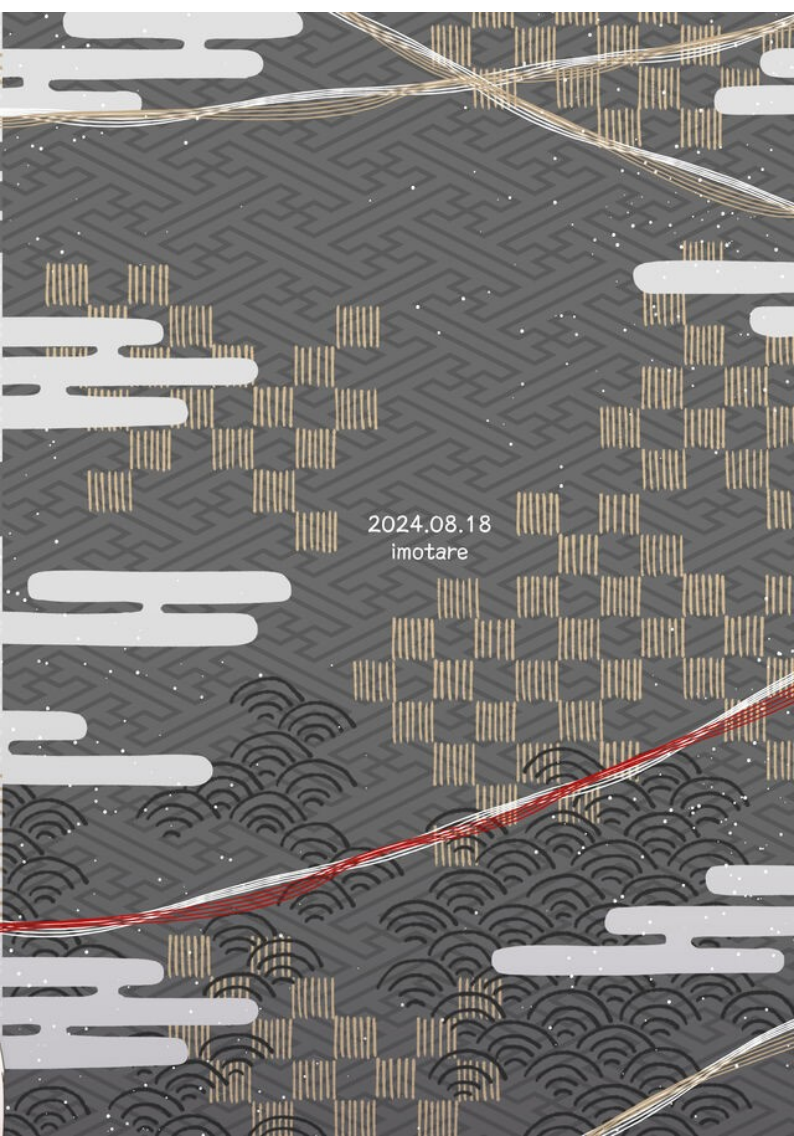


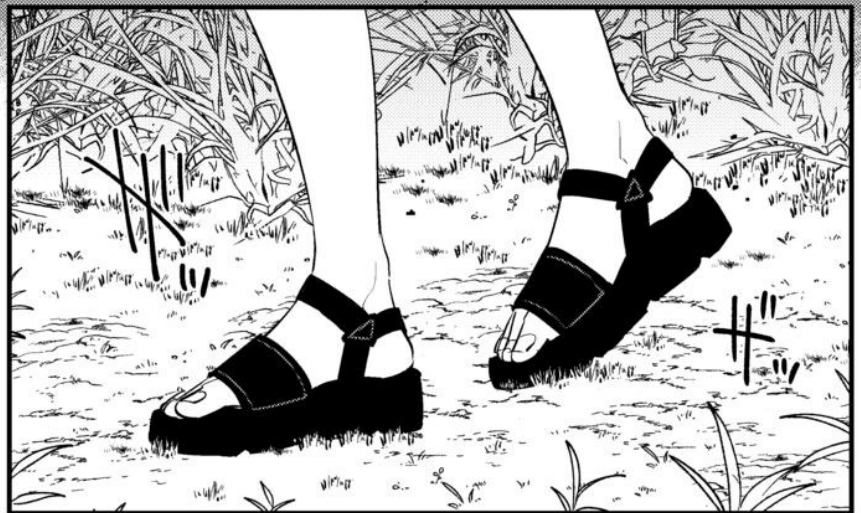
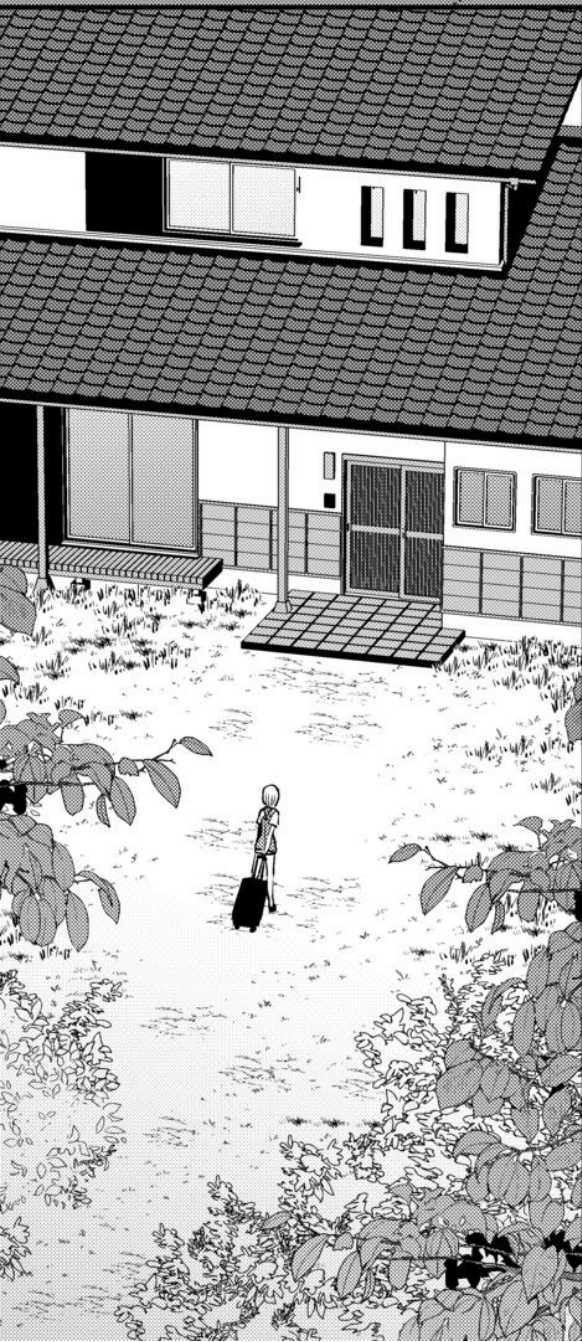
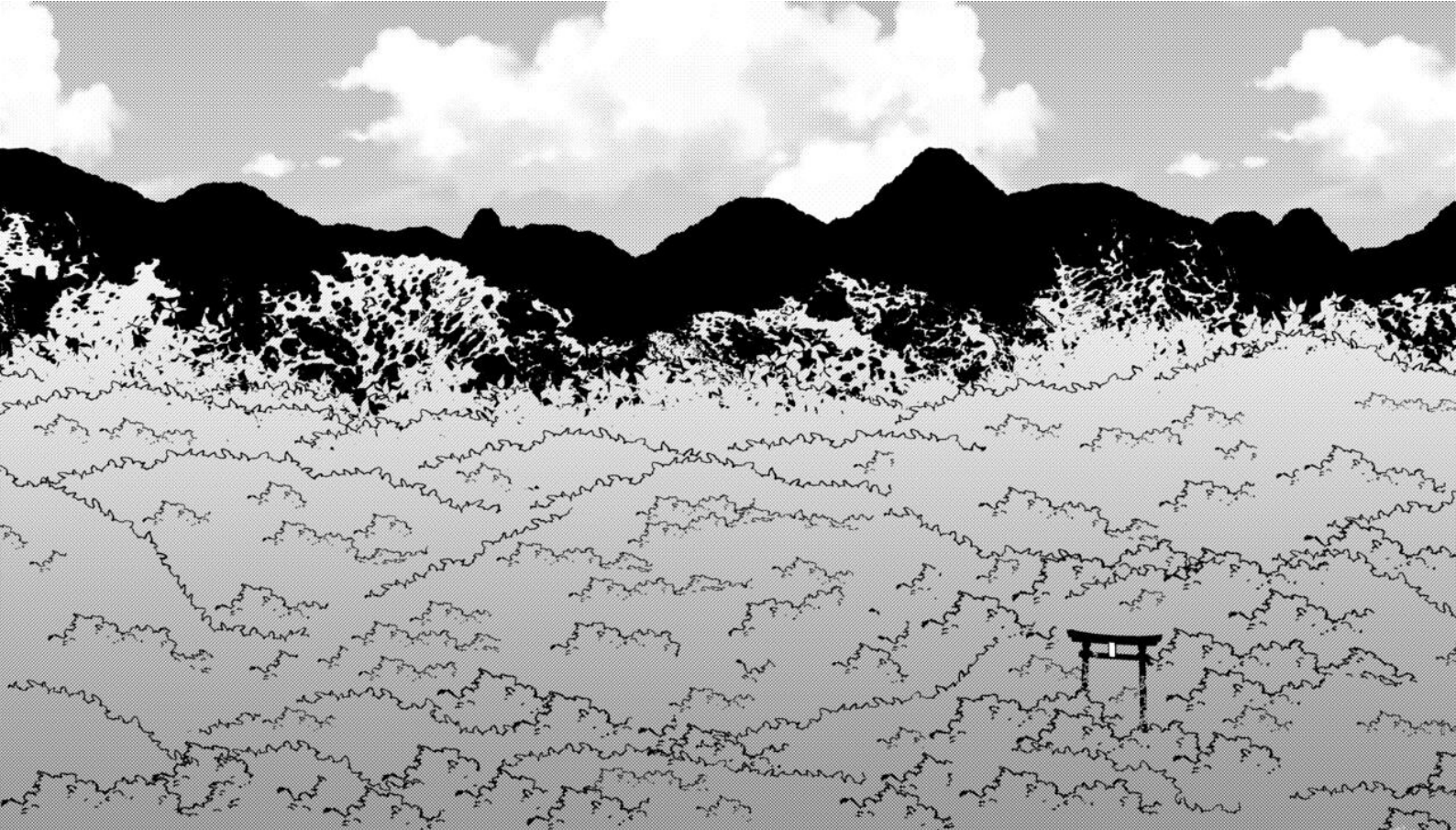


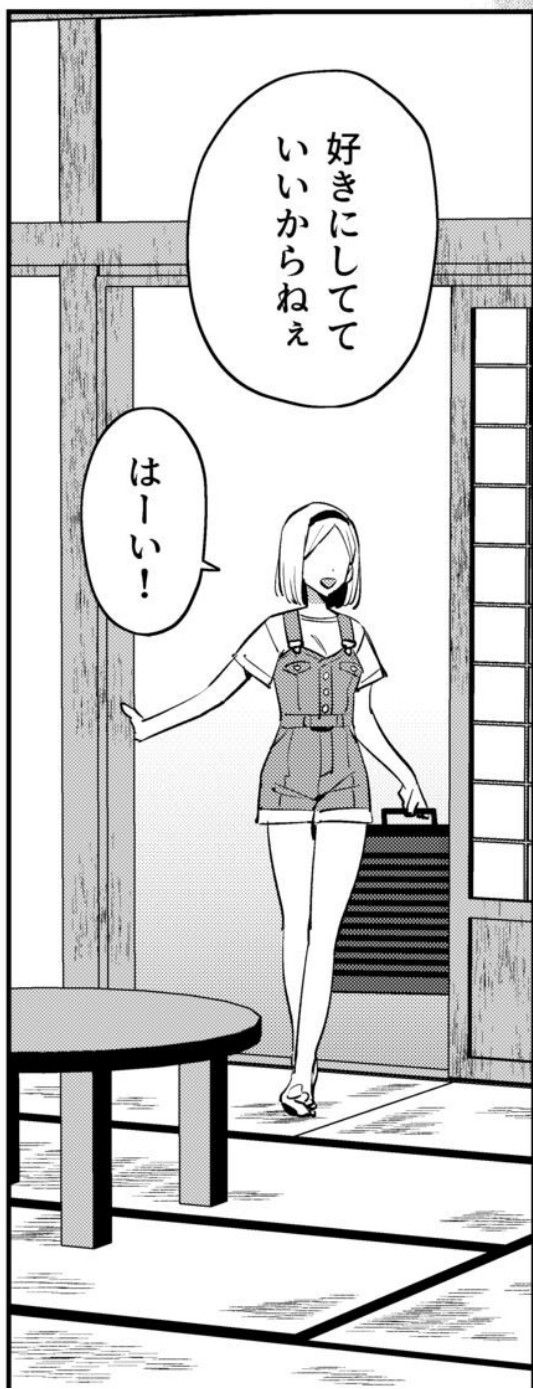
18
Adults Only

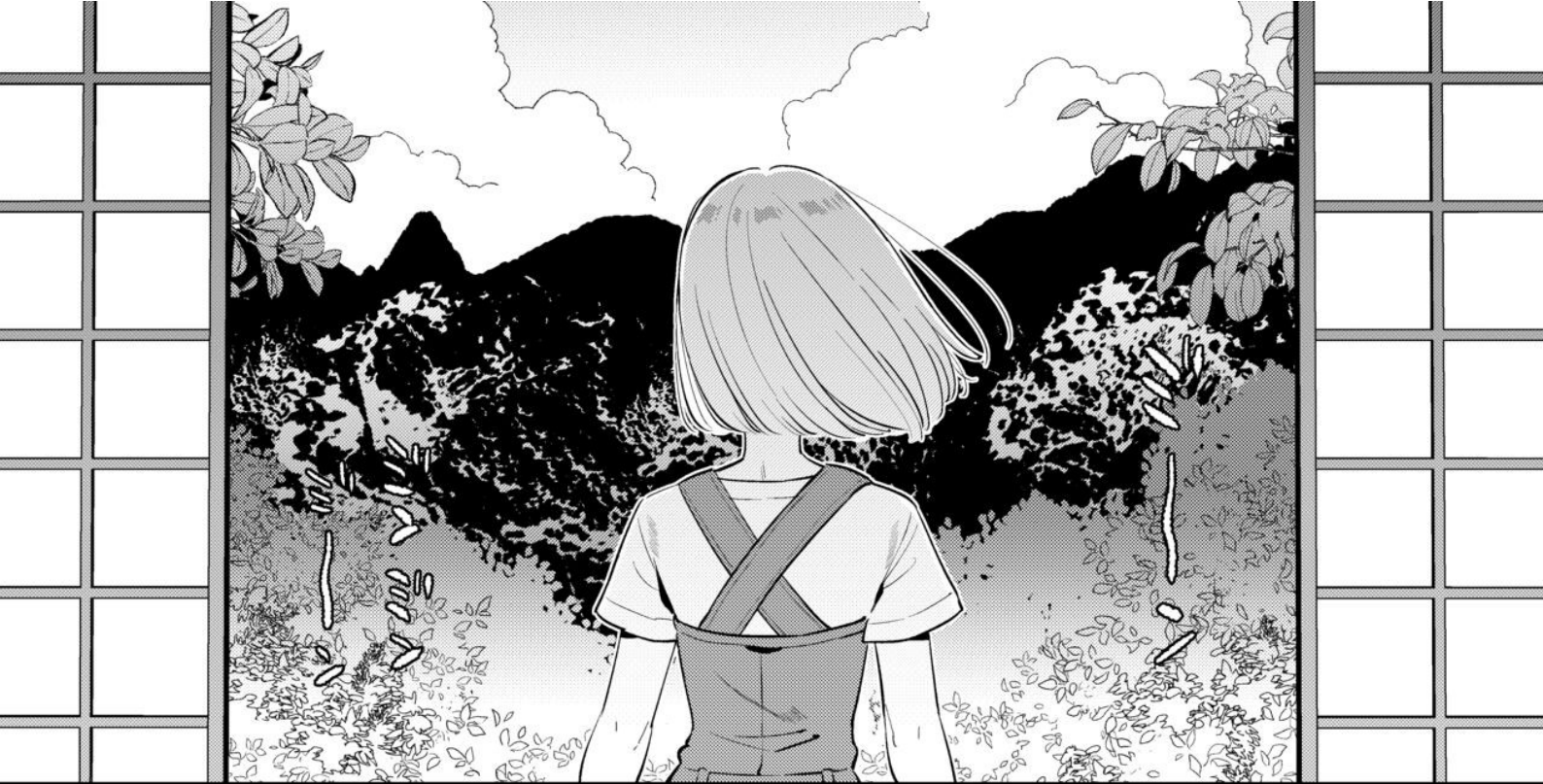
昔一緒に遊んだお兄ちゃんと
再会したら実は山の神様で
めっちゃくちゃに溺愛されちゃう話
気に入られていた私は

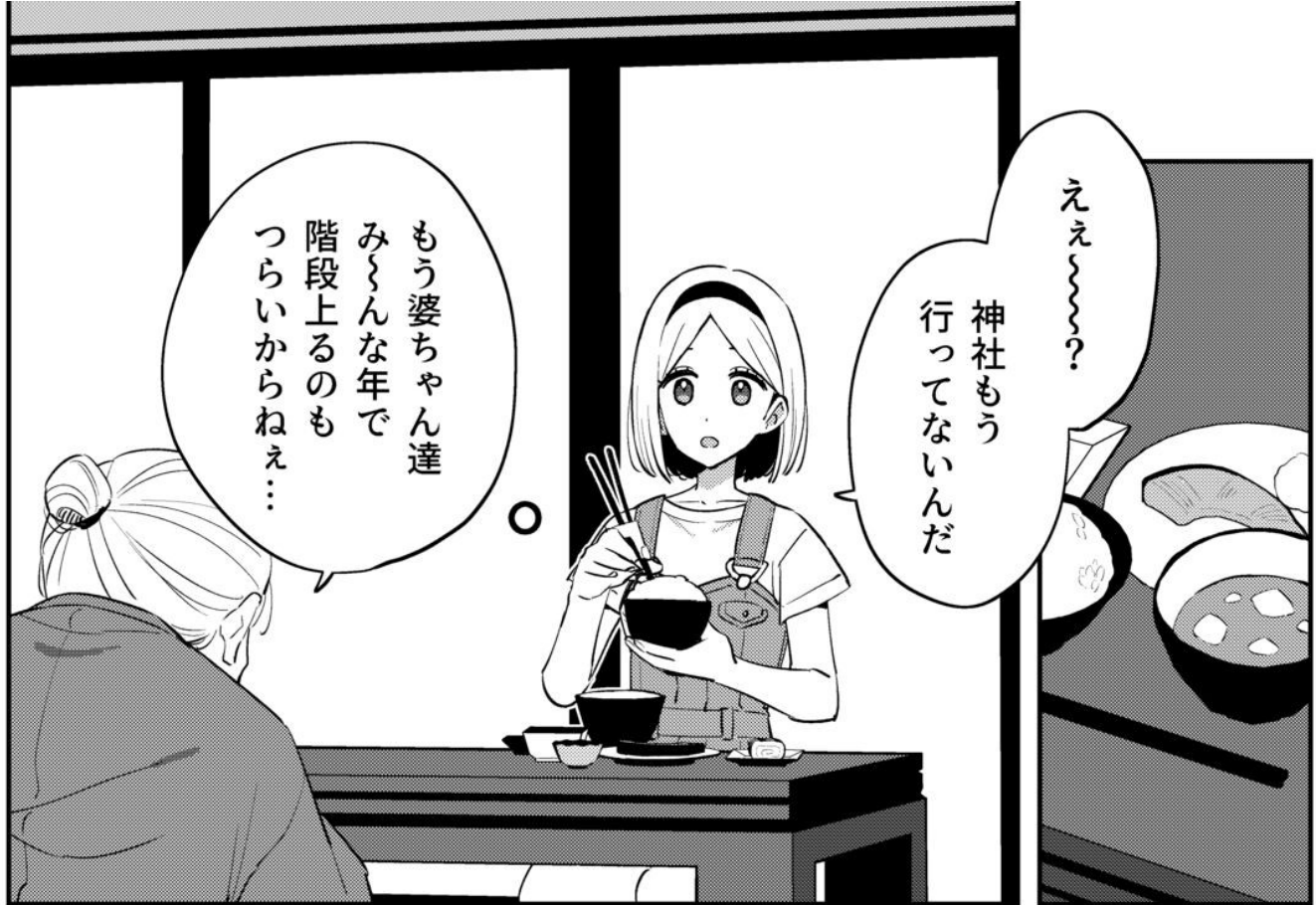


2024.08.18
imotare









もう婆ちゃん達
みくんな年で
階段上るのも
つらいからねえ…

ええ~~~~？
神社もう
行ってないんだ



ありがとうねえ
ひよちゃん
神様もきつと
喜んでくれるよ

でも
古くて危ないから
本堂には近づいちゃ
ダメだからねえ

うん
わかった



若い人達が
来たときは
お掃除お願い
してるけどねえ

そっかー…

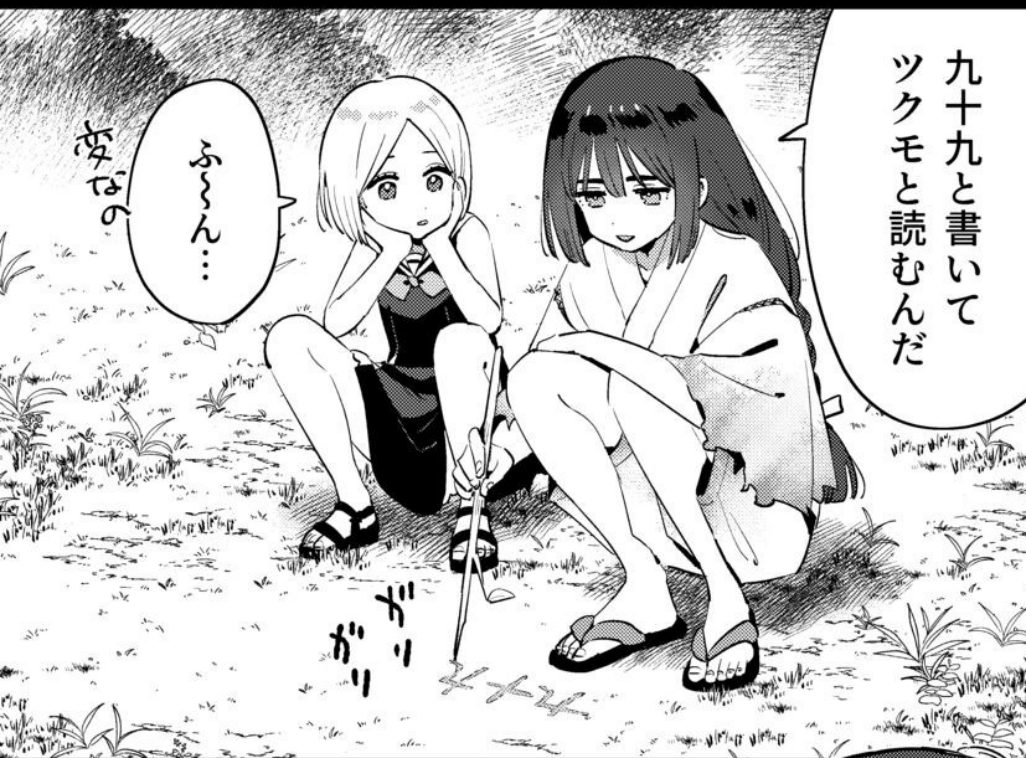
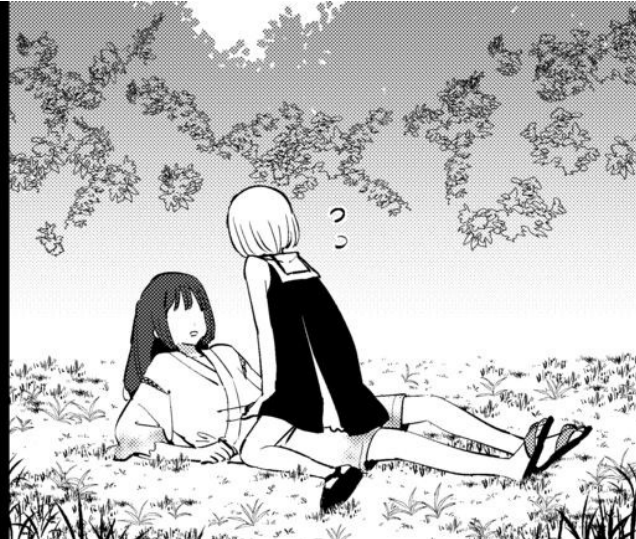
私が明日
ちよつと行って
お供え物だけでも
置いてこようか？







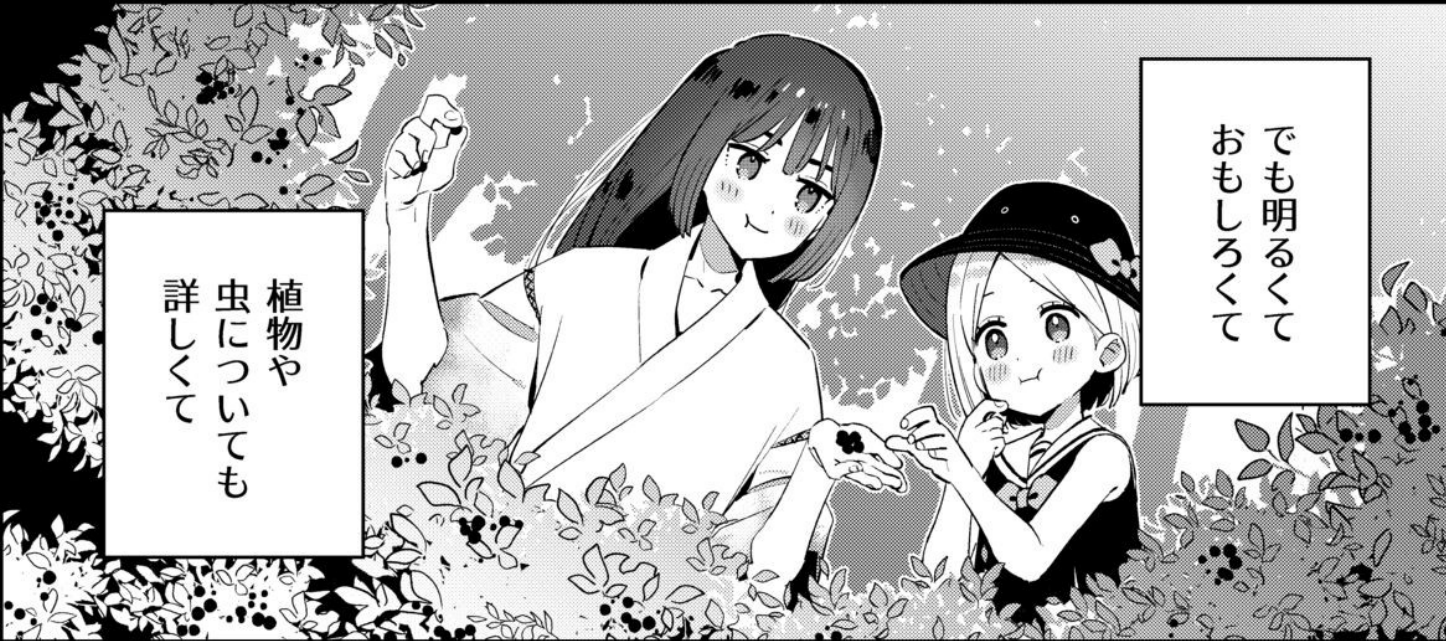






九十九くんは
肌が青白くて
髪が長くて
ボロボロな
甚平を着ていて

とにかく
不思議な
お兄ちゃんだった



でも明るくて
おもしろくて

植物や
虫についても
詳しくて



おばあちゃん家に
泊っている間は
毎日一緒に
遊んでいた

そして
おばあちゃん家で
過ごす夏休み
最後の日……







もし忘れたら……

離れている間も
俺の嫁ということを
忘れるなよ

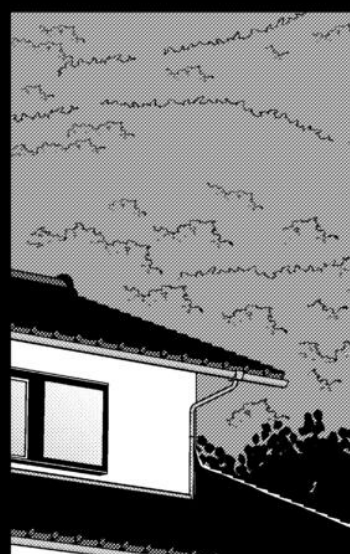
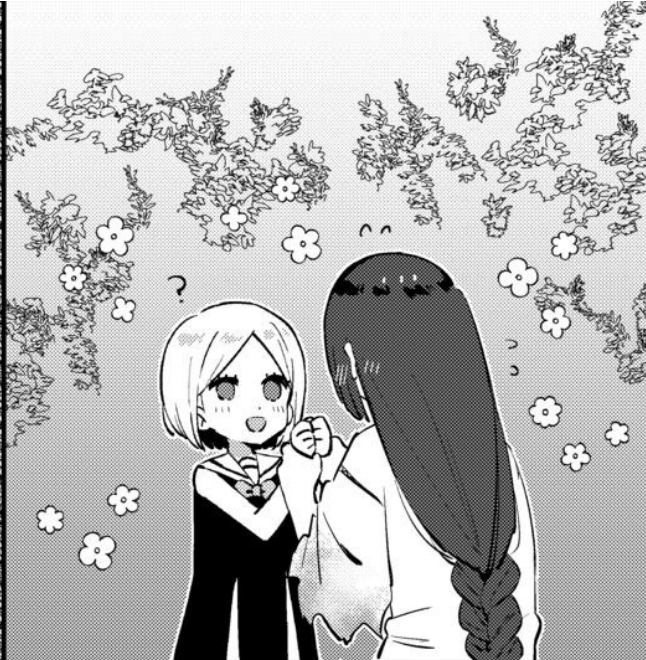
う…うん

…絶対だぞ

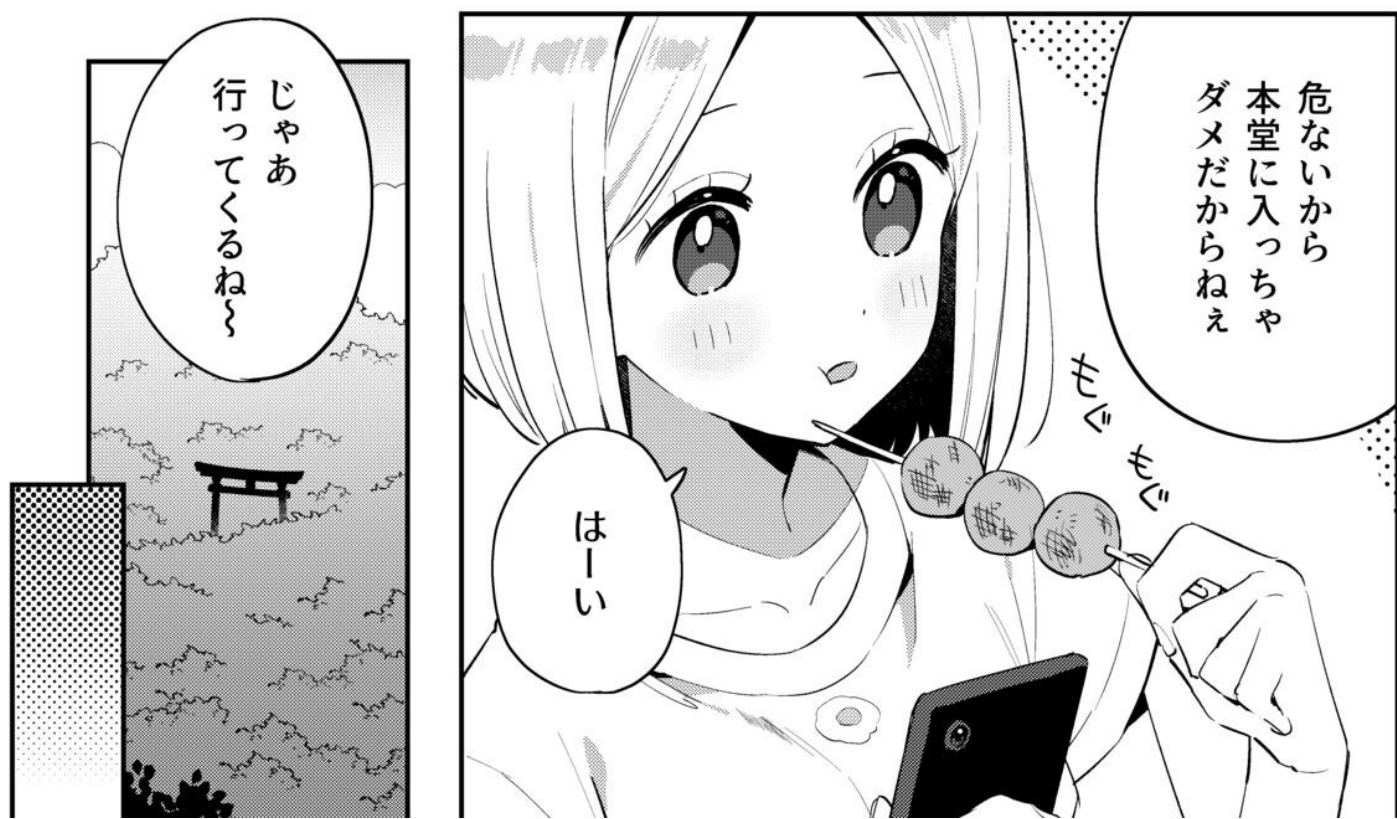
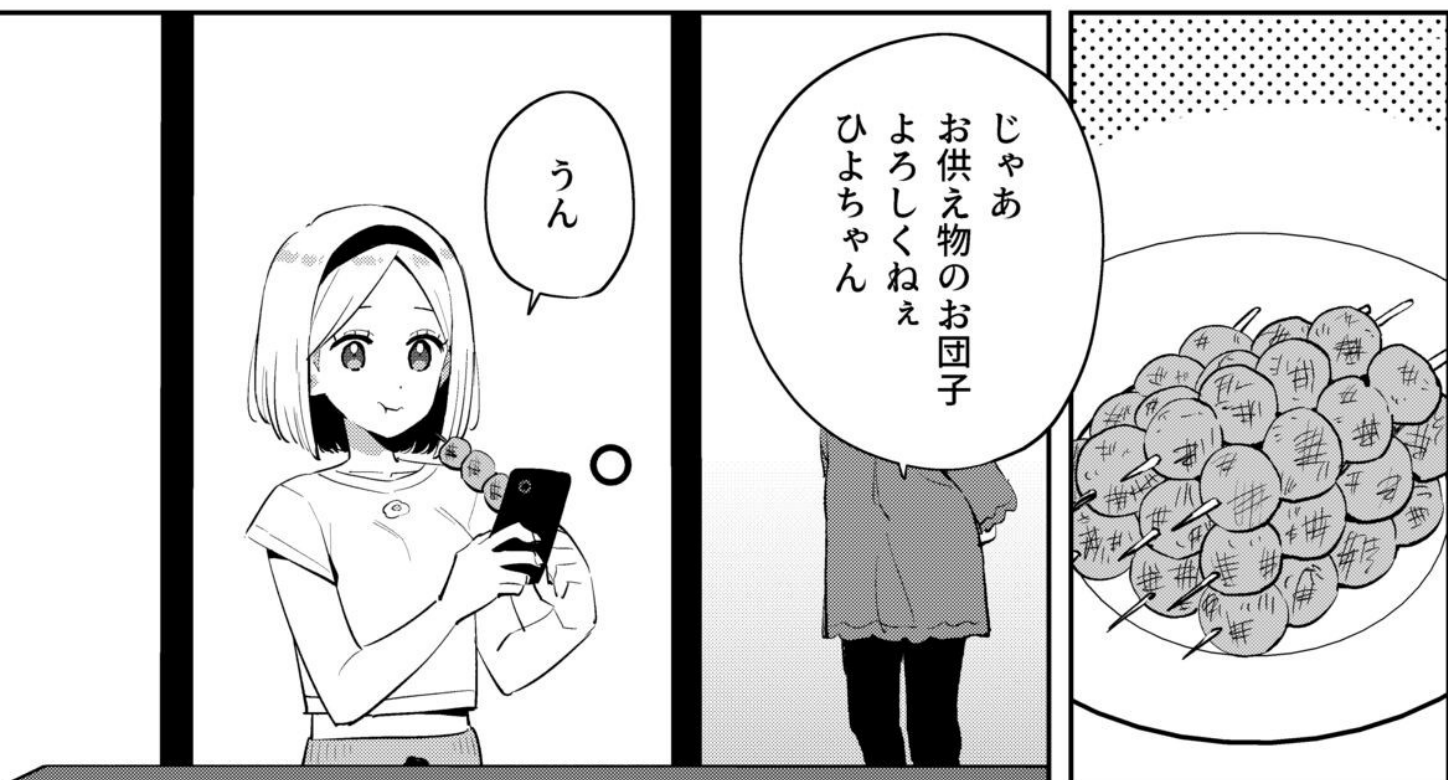
ギュッ

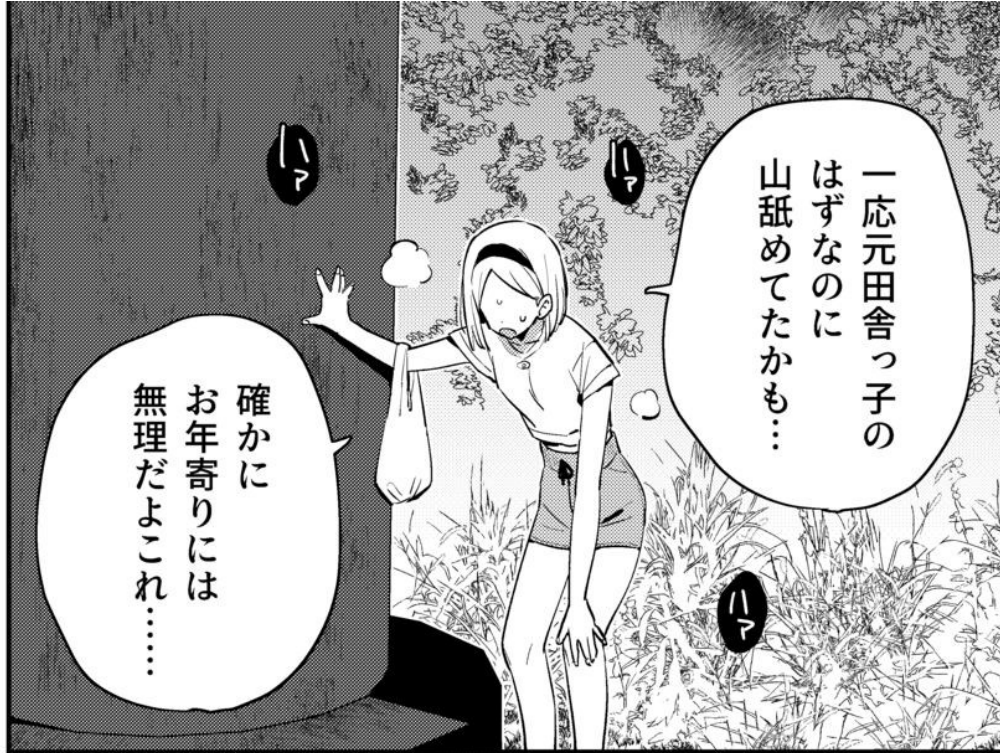


じゃあ
次会ったら
コヅクリってやつ
しようね



九十九くん……
また会いたいな……













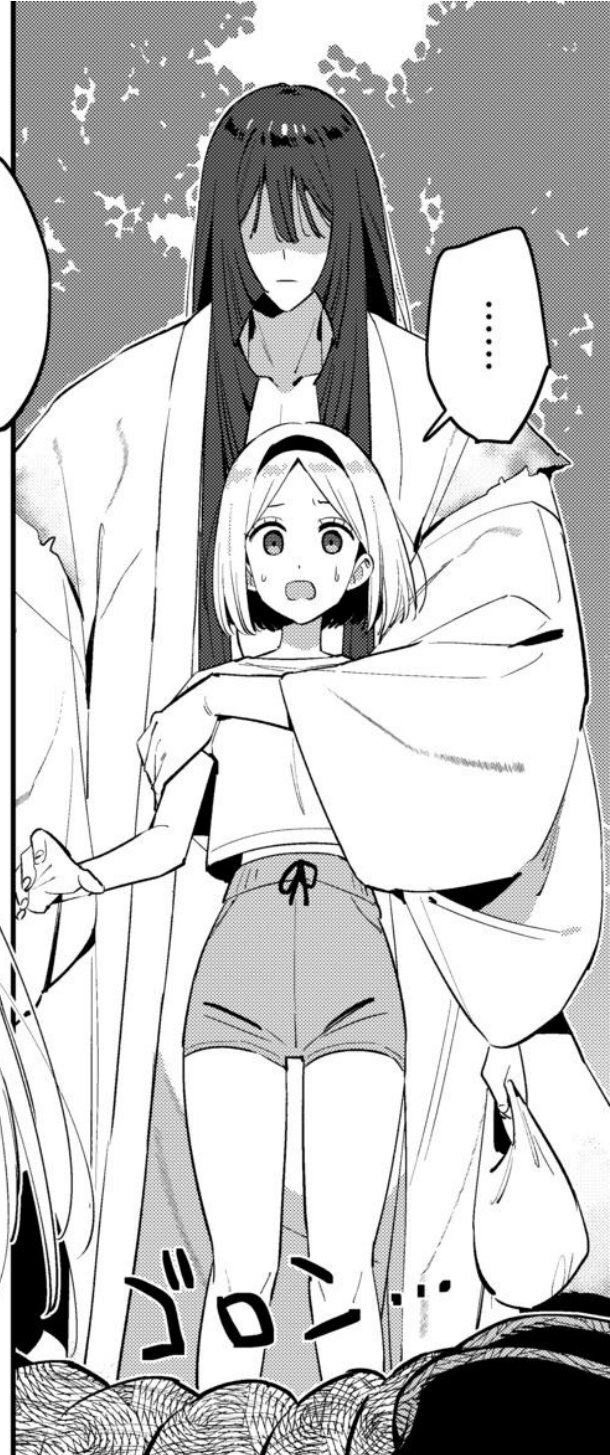
…大丈夫か?

えっ…

あっ…



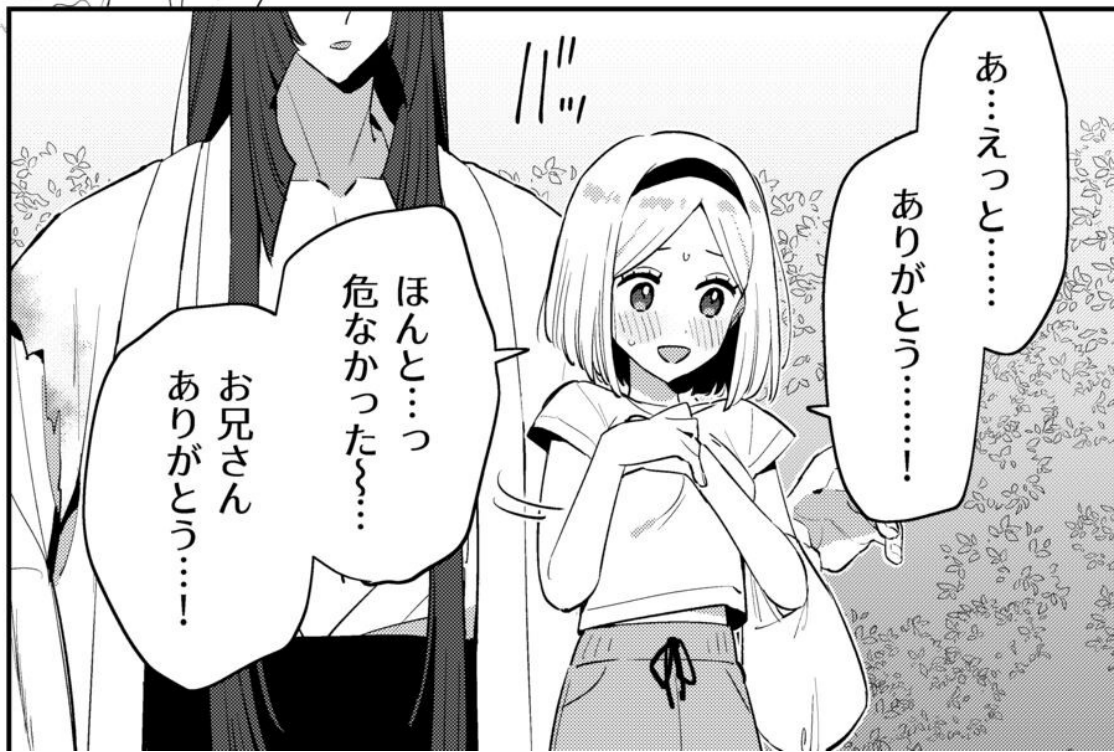
……!



ゴロン…



……!



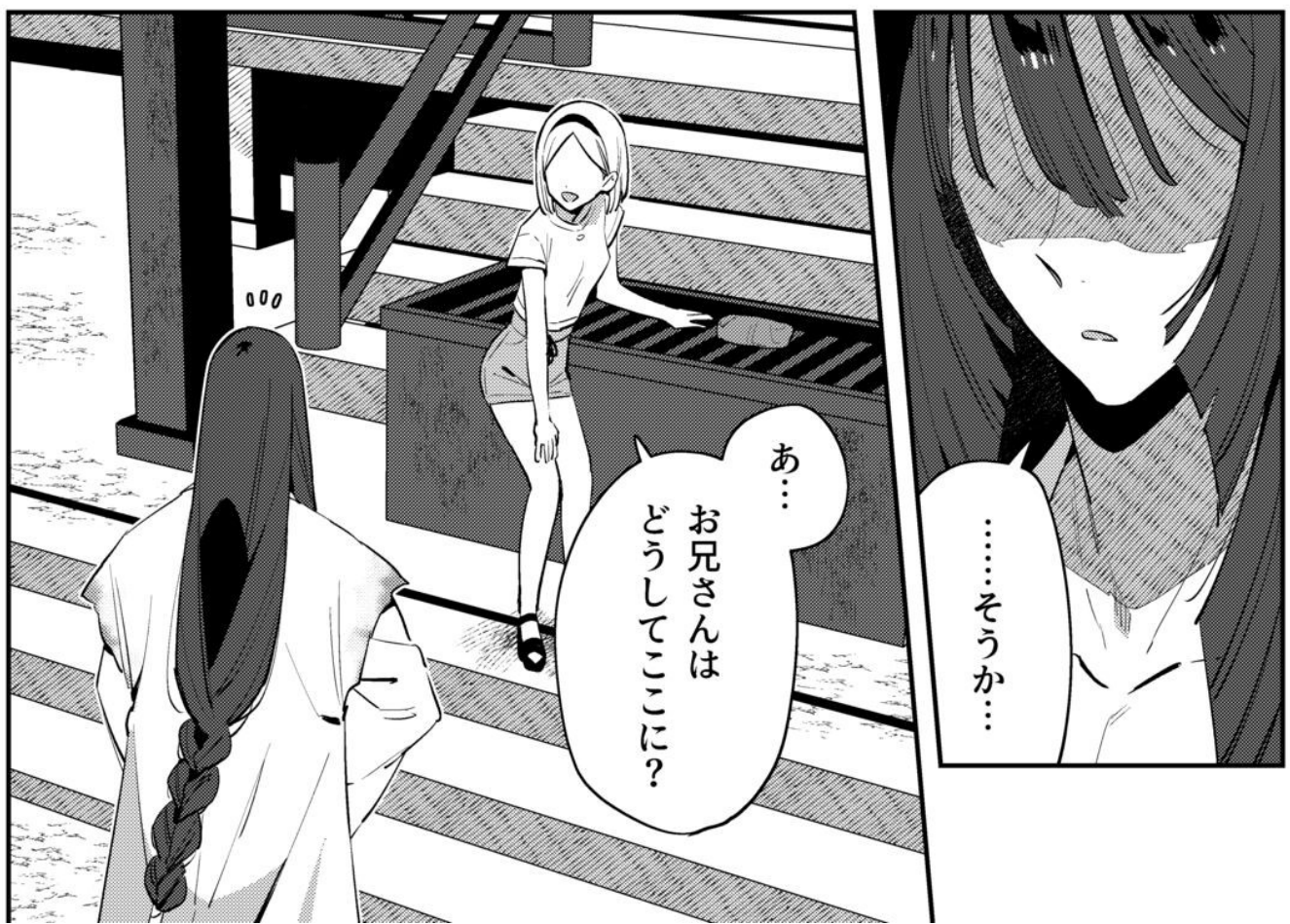
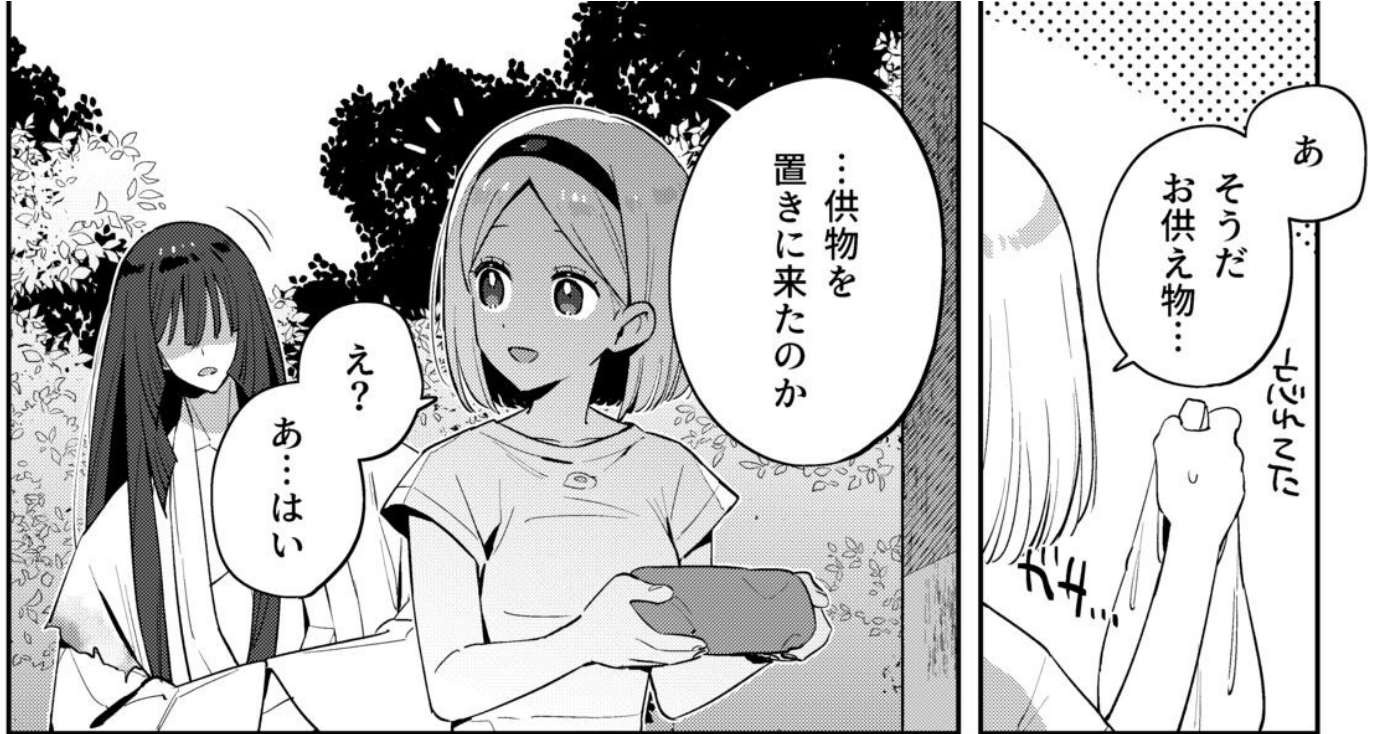
あ…えっと……

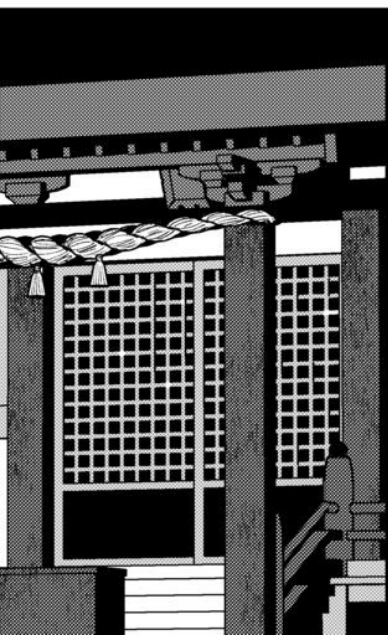
ありがとう……!

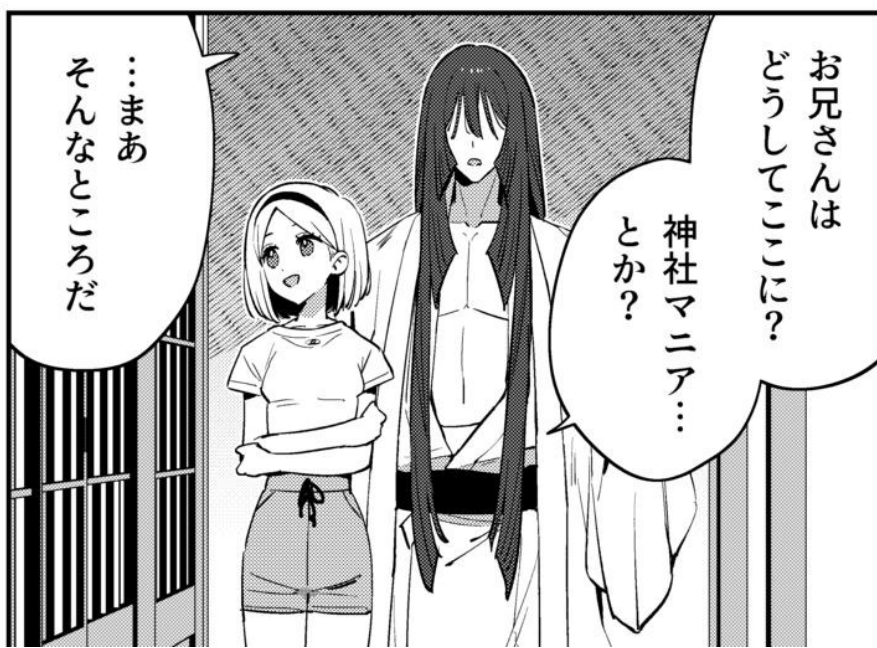
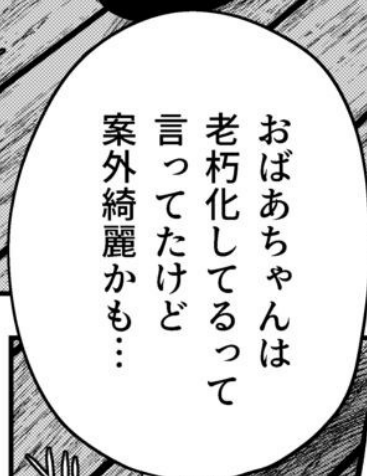
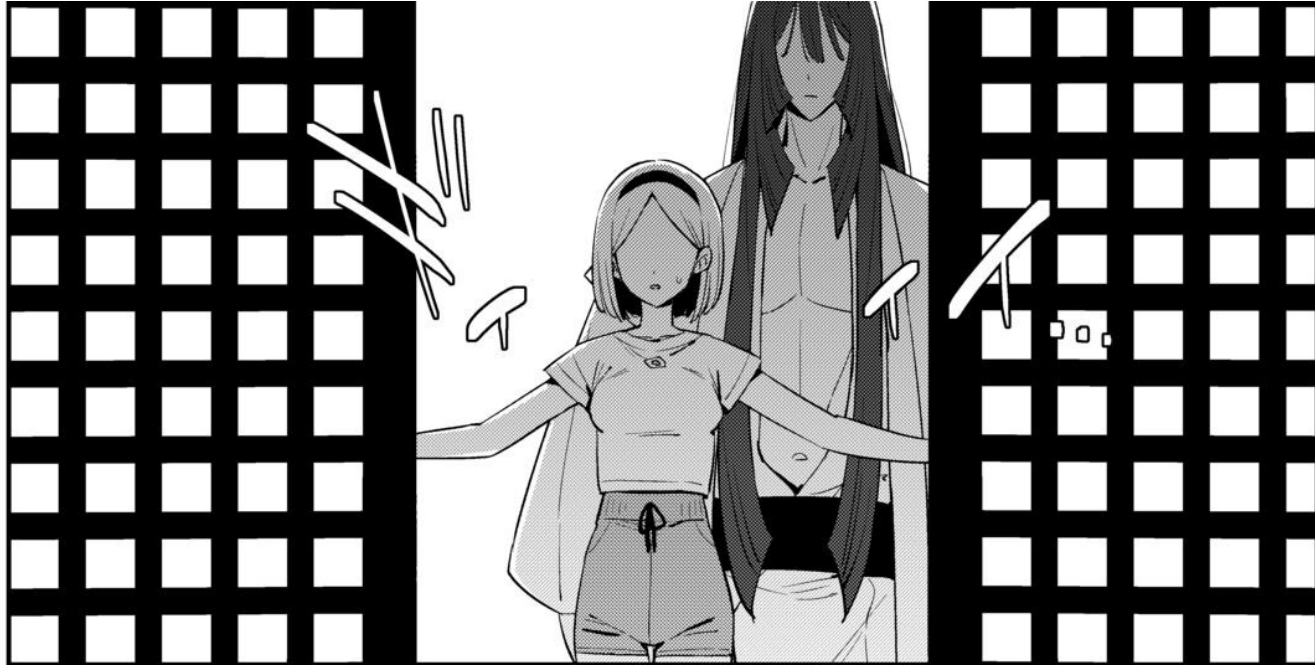
ほんと…っ
危なかった…

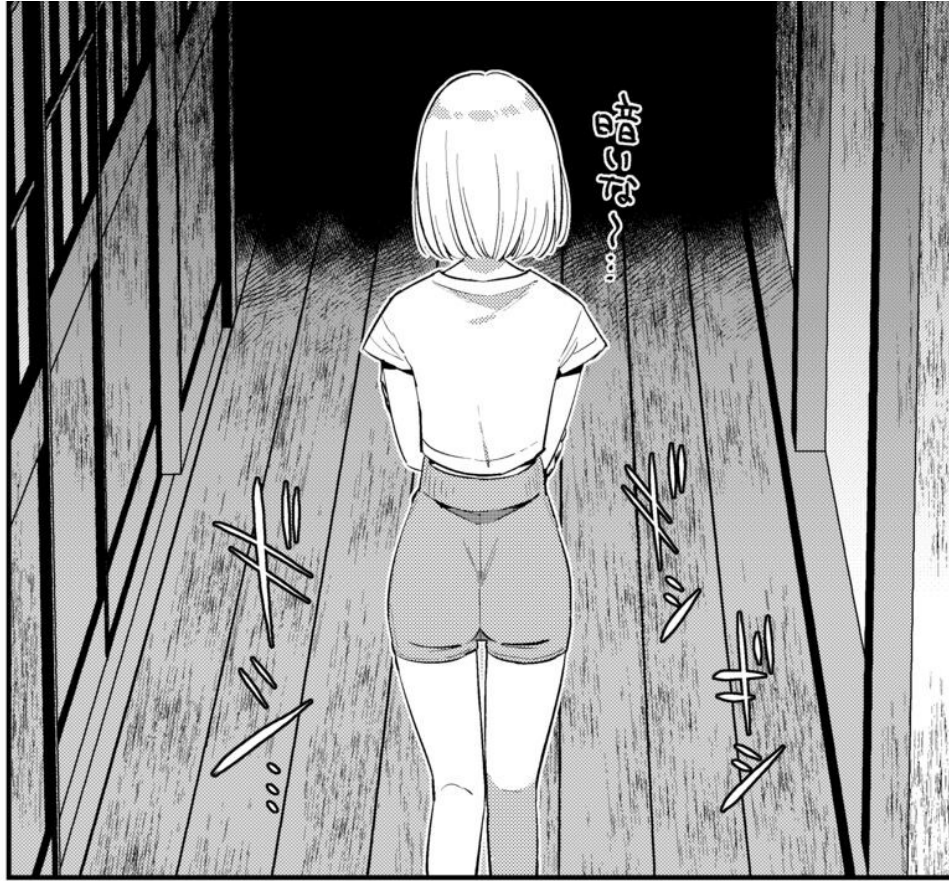
お兄さん
ありがとう…!











暗いな...





ひっ!!?

ぎやああああ——ッ!!?

いっ!!?

いっ!!?



ん...?

ぐ...っ!?

ん...?

なに...これ...っ!?

手の...おばけ...!?

ん...?

ん...?

はなして...っ

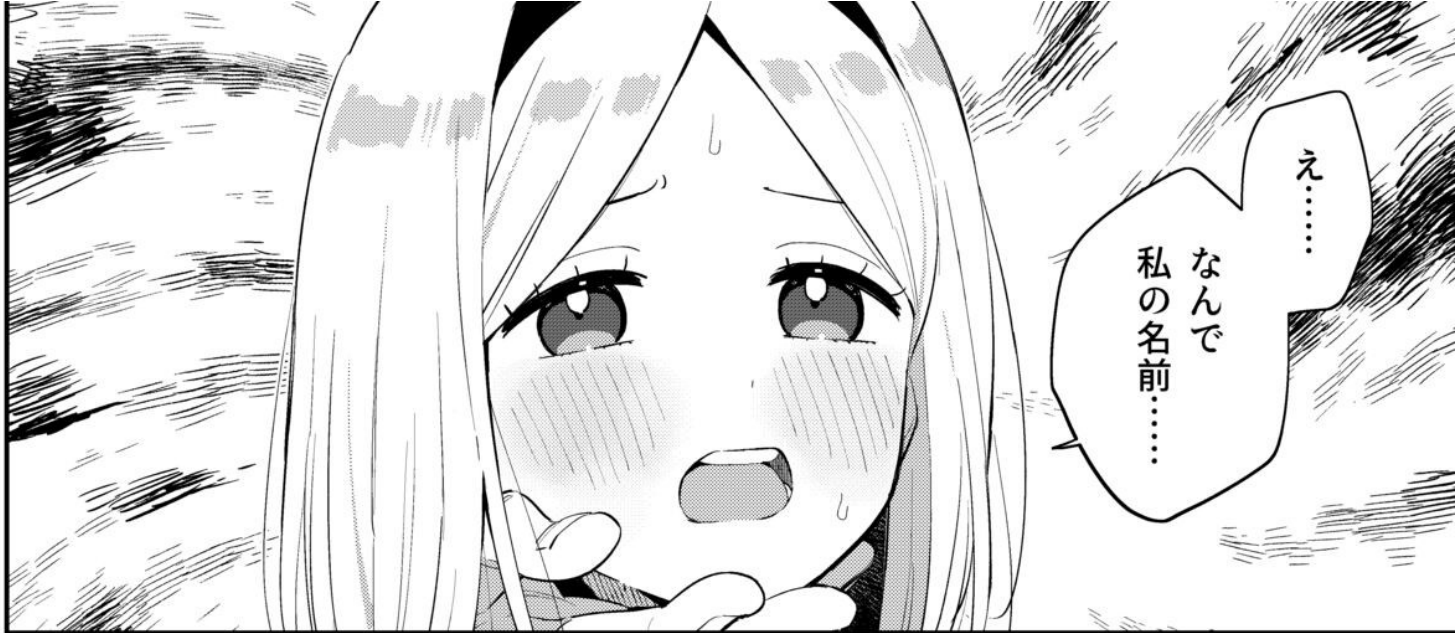
スリ...

お...お兄さ...っ
助け...っ

スリ

...俺のことを
忘れたのか...?

ひよ子



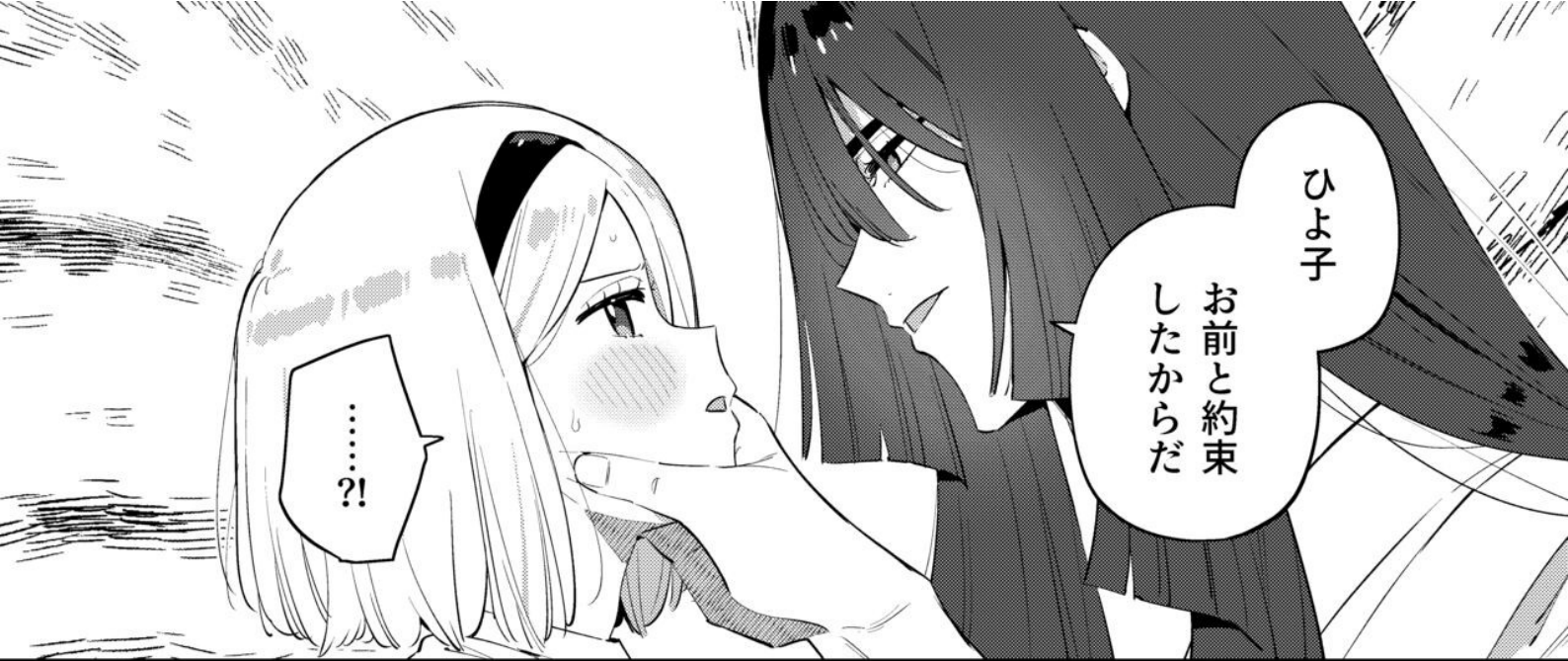


うそでしょ...!?

あ...っ
やだ...!

こ...これ...
あ...あなたが
何か...してるの...!?

フフ...
もっとよく
顔を見せろ







指...冷たい...っ
冷たいのが膣内に入ってくる...♡

めちやくちやに
されて……っ♡

我慢するな
ひよ子

正直になれ♡

たくさんの…
手に…
私の身体…

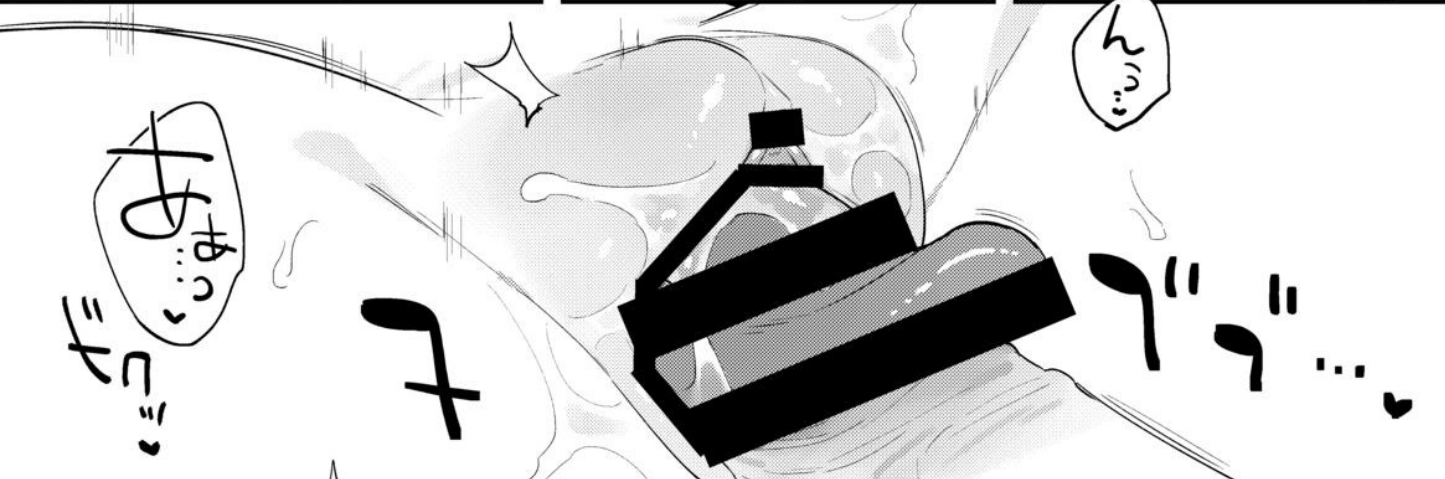
膣内
掻きまわされて……っ♡

おっおっおっ
おっおっおっ
おっおっおっ





こんなの...
入いらな...っ



痛いのに...
どうしてこんな...

おなか
子宮が
疼くの...!?





あ……
アハハ……

ズン

ガッ……

ズン

ア

……



ついに
ひよ子と……!!

ああ……

ひよ子……!!



びい

んぐっ!?

ベロッ

ひよ子……ッ

グッ

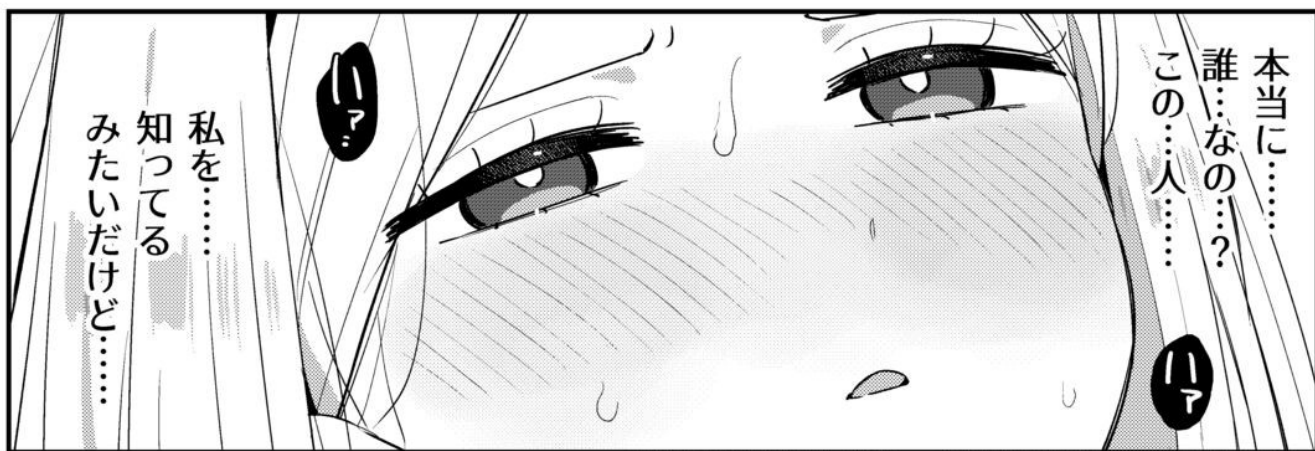
グッ

グッ

グッ

グッ







俺
ひよ子のこと
好きだ！

ずっと一緒に
いたい！



九十九で書いて
ツクモって読むんだ



お前
かわいいな

名は？



俺を一人に
しないでくれ…

ひよ子……





約束したよな!

再会したら
子作りしよう!!

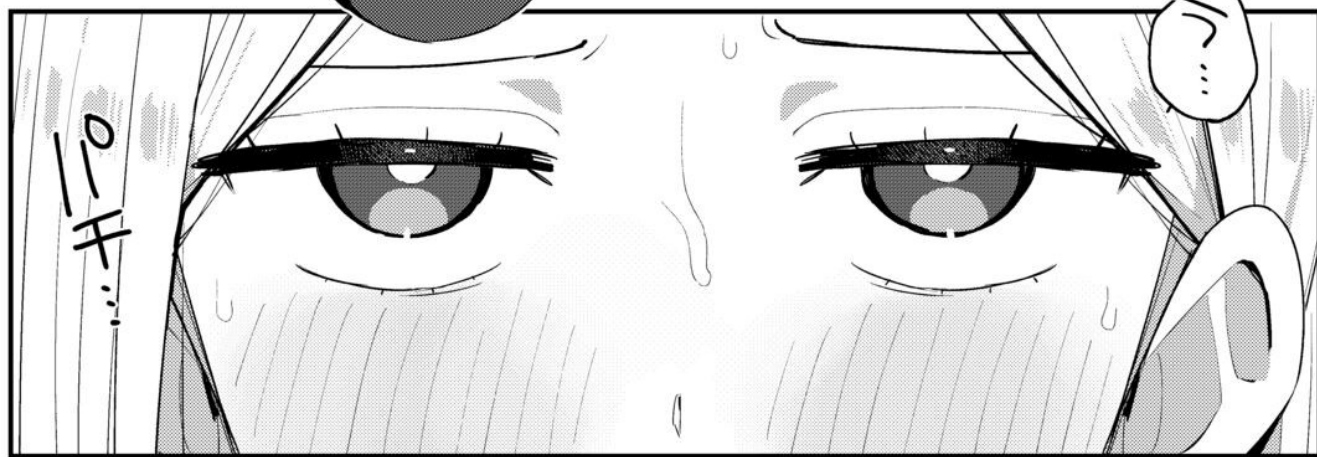
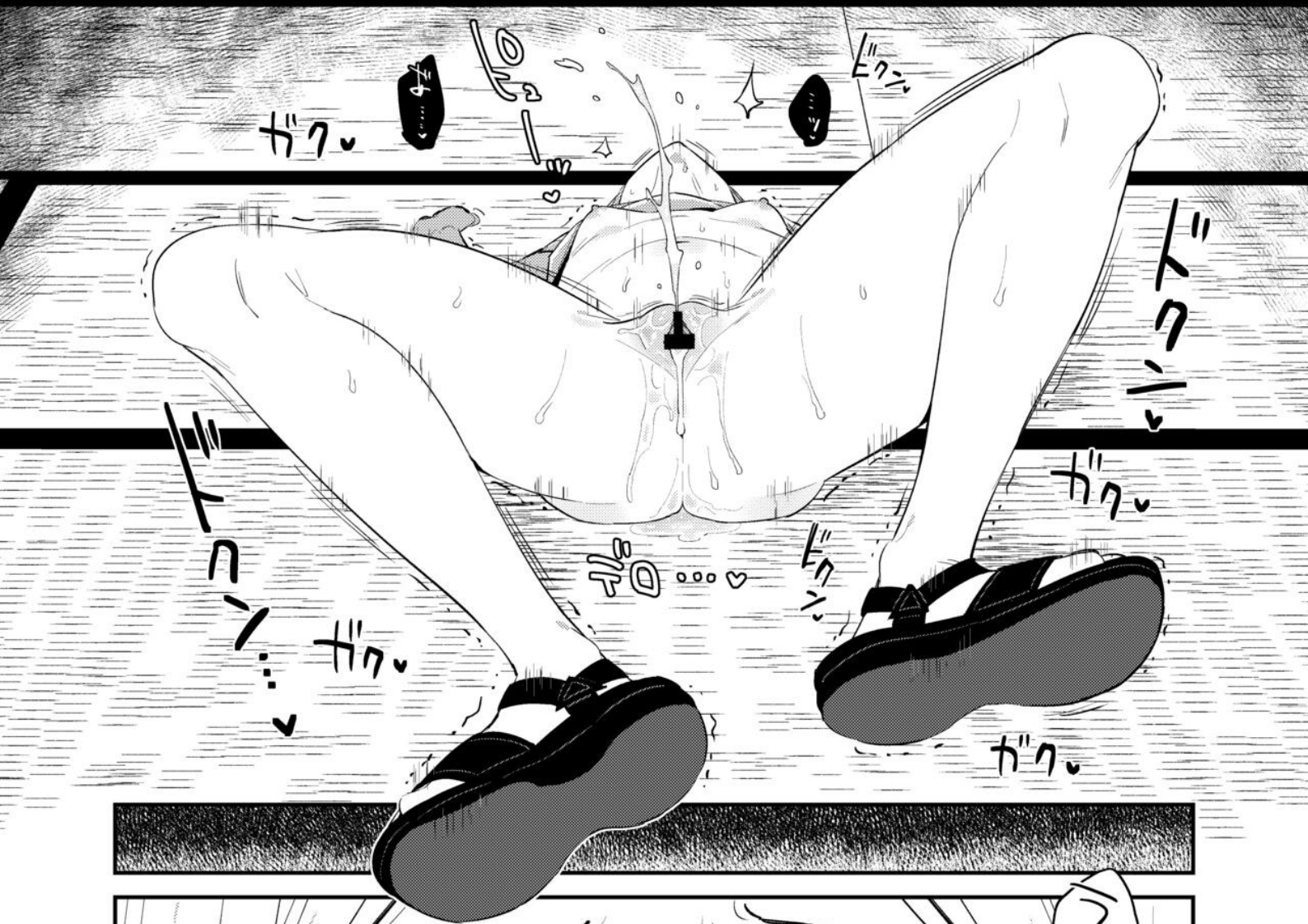
お前が約束
してくれたんだぞ!!

俺はずっと
待ってたんだ
お前と再び
会えるのを!!

だが
いつまで経っても
お前は来なかった!

嘘を吐かれたのかと
思った!

でもこうして
来てくれた!!





ひよ子…
目覚めたか……

…すまん
つい調子に
乗りすぎた

お前が
思い出して
くれたのが
嬉しくてな…



…そうだ…私…
九十九くんに…

めちやくちやにされて
気を失って……

思い出せる
記憶の数々…



思い……？



あや？
服着てる…





ああ
そうだ

九十九だ



本当に…
九十九くん…
なんだよね……？

と、
じ



…たった
6年でここまで
大きくなる？

同じ年
くじいじなれた？

俺の姿かたちは
見える者の心理が
反映されている



…なんで
忘れちゃって
たんだろう

毎年夏休みは
こっちに来てるのに



それにしても…





それにしても…

俺の嫁に来るために
やっと帰って
来たのかと思ったら
あろうことか全てを
忘れていたとはな

「おふん」

まったく
お転婆なのは
変わらん



毎年
夏休みの一週間だけ
こっちに泊りに
来てるんだけど
神社に来たのは
あの時以来かな…

…それにしたって

「ハァ…」

次会ったら
子作りしようとか
意味もわからず
約束しちゃうなんて
私もバカだなあ……



……ッ!?

なにその間…
ウソでしょ……!?

今日起きたことは
お前にとっては
幻覚のようなものだ

「おふん」



九十九くんって
アレだよな……
人間じゃない的なやつ
なんだろうけどさ……

まさかとは思うけど…
…できないよね……??





そんなに腔^{ナカ}内で
きゆうきゆう
絞めつけなくとも

俺はどこにも
いかないから
安心しろ
ひよ子...♡

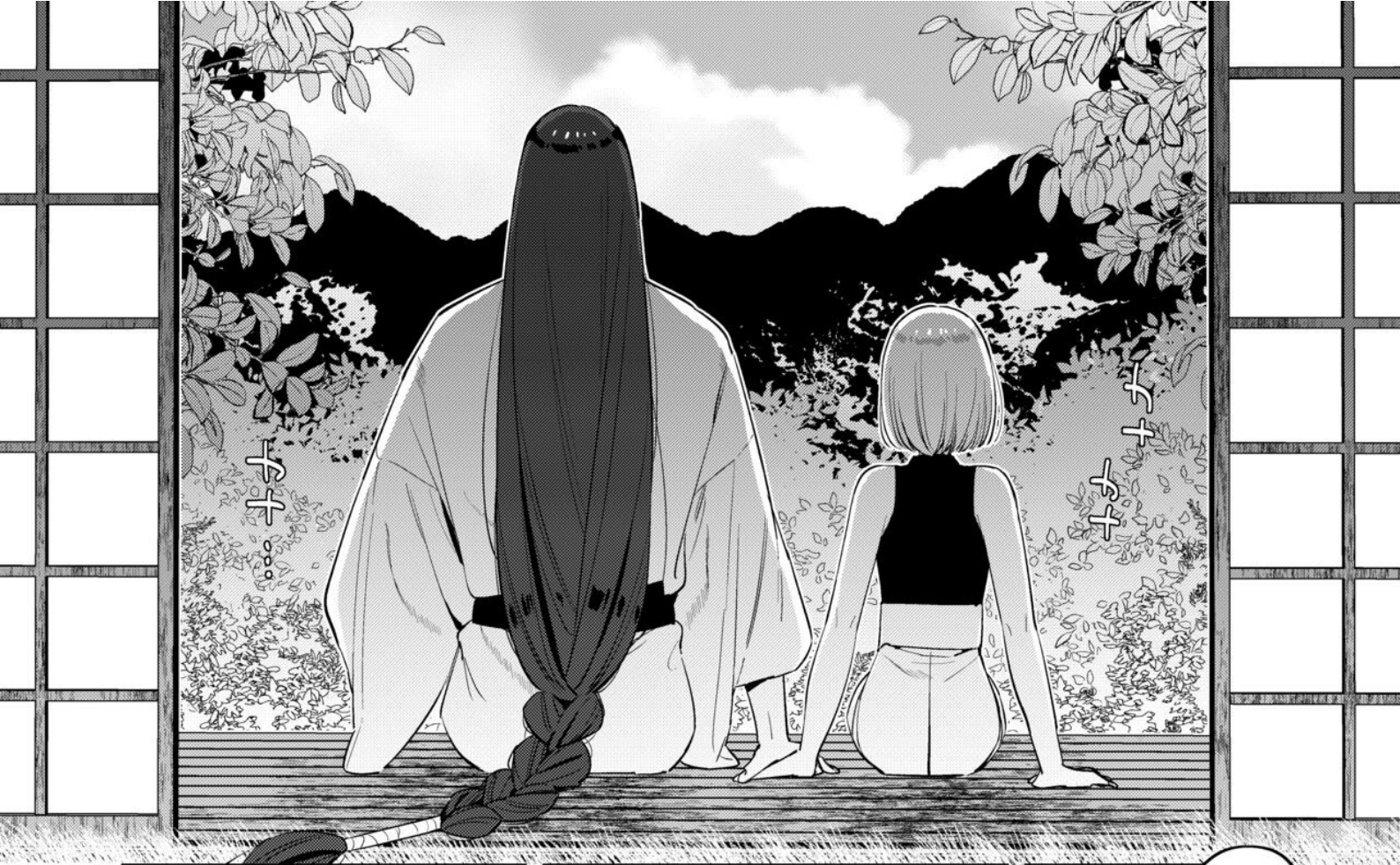
声出ちゃ...♡



それから私は...

残りの夏休みを
全て九十九くんと
過ごし.....

そして
おばあちゃん家で
過ごす夏休み
最後の日.....



…今日で最後か

また会えなくなるのか…？

またすぐ会えるよ

でも次は
お正月かな…

…力づくでも
お前をここに
留めさせる

…と言ったら？

それって
神隠しのな？

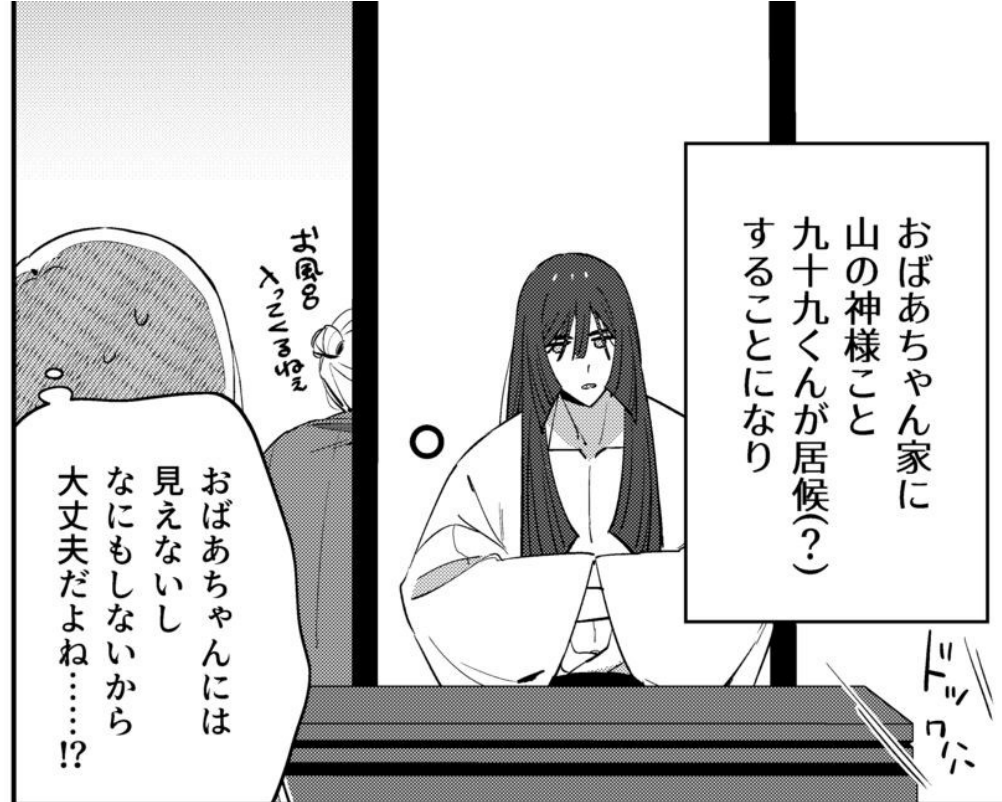
できるなら
あの頃に
とつくに
やってるでしょ

…痛いところを
ついてくるな…



おばあちゃん家は？





おばあちゃん家に
山の神様こと
九十九くんが居候(?)
することになり

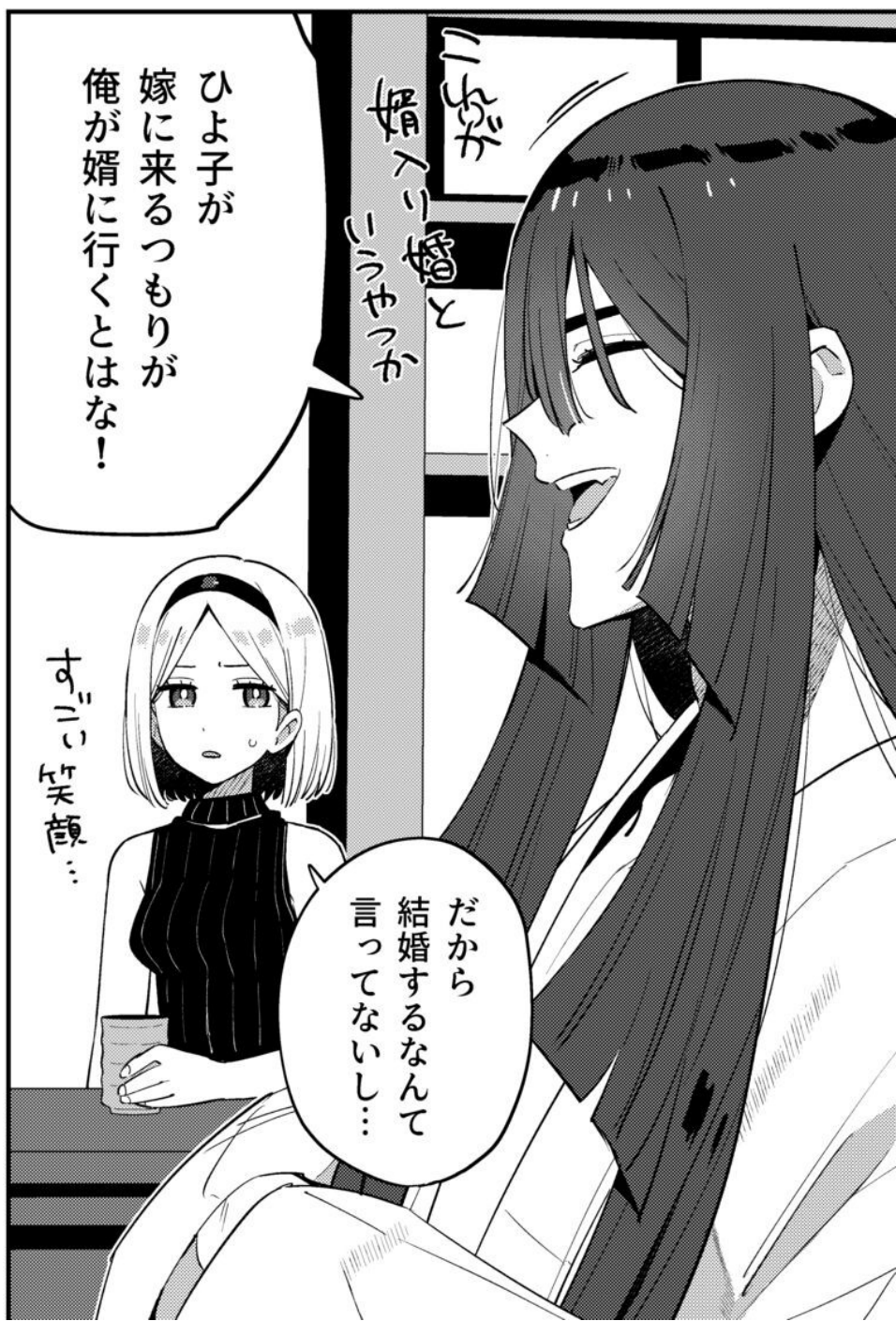
ドッ
ン



こうして



俺と
結婚するのは
嫌か?



ひよ子が
嫁に来るつもりが
俺が婿に行くとはな!

すごい
笑顔...

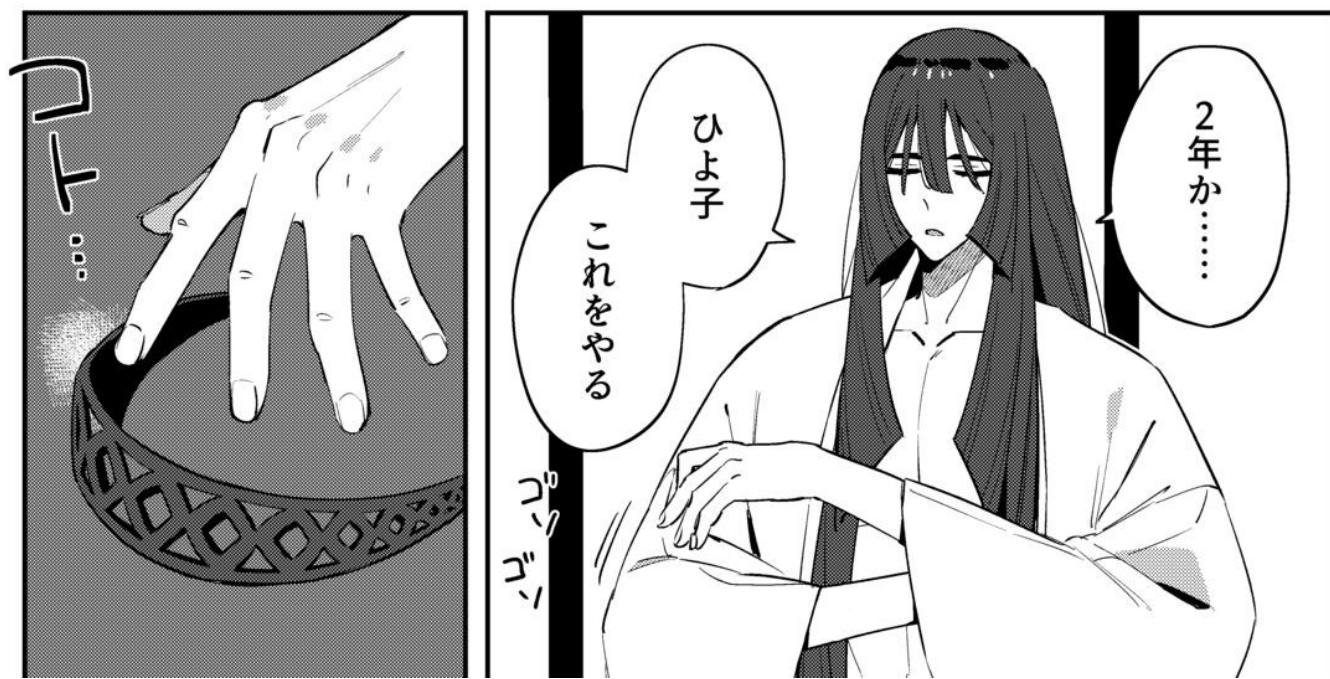
ひよが
婿入り婚と
いうやつか

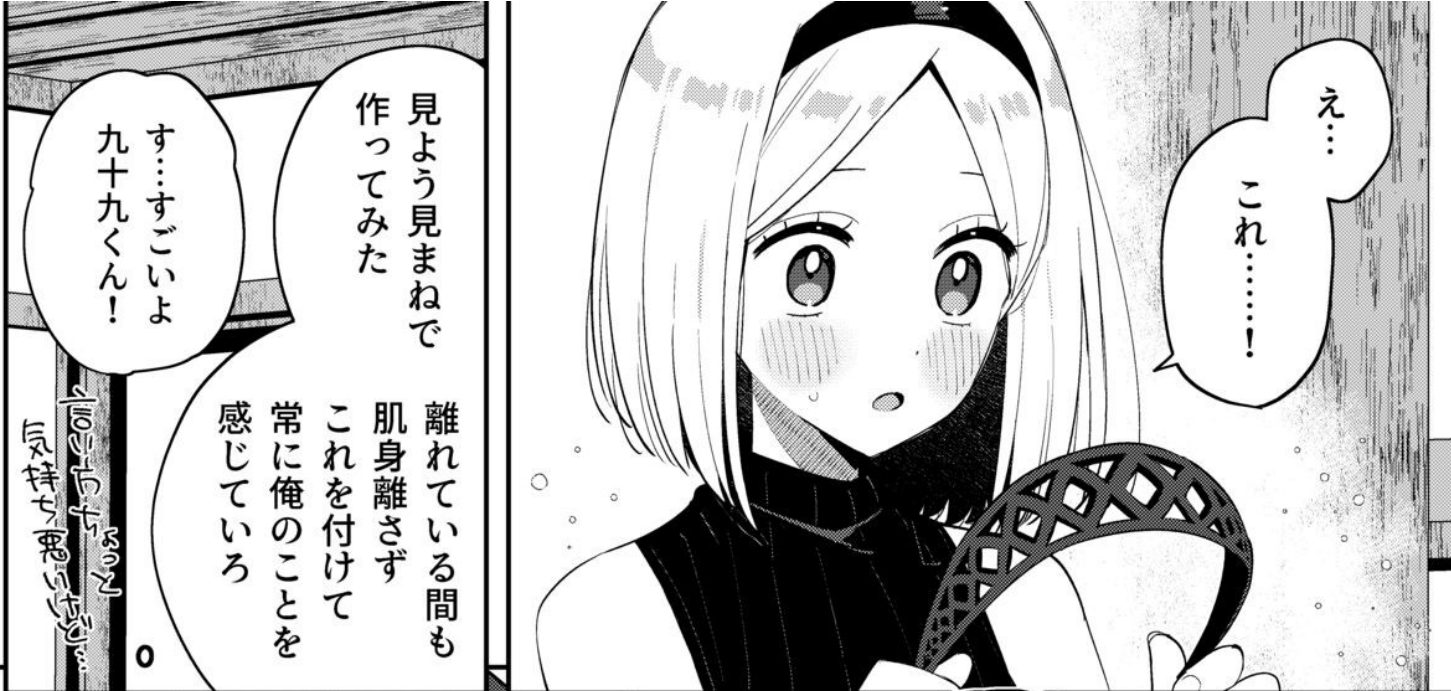
だから
結婚するなんて
言っていないし...



結婚なんて
まだわかんないよ...

ズズ...







…霊体って
死んでも逃げられない
ってこと…!?